

拝啓 めっきり秋らしくなりました

この度は、忌明けの品物頂戴いたし、恐縮に存じます。早いものですね、バッカスのご葬儀がつい先ほどのように思えます。まだ、お悲しみはお残りのことと存じ上げます。

さて、ご葬儀の通知を頂いたとき、びっくりと、車で行くのはどこへ行けばよいか、が頭をよぎり、時間を取れない電話ですので、お悔やみを十分お伝えしなかったことお許してください。葬儀当日、申し上げようと思っていましたが、当日の式次第では、お会いする機会もなく、こうして、手紙でお悔やみ申し上げる失礼、重ね重ねお許してください。

心からお悔やみ申し上げます。

バッカス並びにおばさん（お亡くなりになったことをつい知らず、葬儀に出席できませんことお許してください）には本当にお世話になりました。お二人は我々下宿人を面倒見良く、本当に親切にして下さいました。お陰で、楽しい学生生活をすごすことが出来、感謝しております。

ナイロンザイル事件、山登りを通じて、人生の処し方を学びました。“危険は避けよ、困難は避けるな”。この言葉は社会へ出て、私の人生の規範となりました。その他色々学びました。

葬儀の間、昔のいろいろな事が、脳裏をよぎりました。

あづみちゃん（失礼ですが、こう呼ばせてください）を遠くから、拝顔しました。やっぱりバッカス似です。50 年も会っていないのに、昔の面影がありました（梓ちゃんとはバッカス会でお会いしました）。

私が下宿にご厄介になっていた時は、あづみちゃんは 4、5 歳と記憶しています。

今でもはっきり覚えています。おばさんと縁側の前で話をしていたとき、あづみちゃんが松ノ木（今あるとすれば大きくなっているでしょう。当時は直径 20 c m 程度でした。どうやって登ったかは解りませんが、やっぱりバッカスのお嬢さん登るのは得意でした）の上約 2、3m のところに居ました。おばさんが「危ない！」といった瞬間に、ずるずると滑り落ちました。本当にびっくりしました。でも怪我はありませんでした。

バッカスとは応接間で、ナイロンザイルについてのことを何度も聞きました。又色々議論しました。当時の我々の青二才の意見をじっくりと受けて頂きました。少しでもお役に立てていればと思います。阪大の篠田教授との裁判のこと。之で、裁判についての知識も得ました。庭でザイルの実験をしたこと：山の岩は自然の剥離であるから鋭い切れ口を持っているので、ザイルの表面を削り取る、従って実験に

はそのような石を使用しないと間違った結果になる。又、井上靖の小説「氷壁」のことなどなど。そういえば、数ヶ月前に TV で「氷壁」がありました、ザイルの代わりにカラビナでした。見ていてバックスのこと思い出しました、まさかその数ヵ月後にバックスがお亡くなりになるとは。

又、縁側でザイルを削って、ナイロンザイルにはストランド（より）があり、必ず糸が何回目に出てくる、従って表面をある長さで削れば全ての糸が切れる。糸はつつるなのですと抜ける。だから、岩角で削れば、ショックなしに切れる。このような解析は見事でした。

バックスが、ナイロンザイルの実験で世話になったと、岩稜会のメンバーと一緒に穂高へ連れていってくれました。あづみちゃんはおんぶすることなく、皆で引っ張り上げました。山でキャンプをしたいといったら、わざわざ下宿人（江口、伊藤、小生）だけをつれて、前穂の頂上付近でテントを張って頂きました。初めての経験で、2 度と出来ない貴重な経験をさせていただき、うれしかったです。今から考えるとテントは岩稜会の方が担ぎ上げたものでした、本当に有難く思います。御礼も言わず申し訳なく思っています。

屏風岩の登攀にはルートが見つからないときはそこへハンカチを置いて、降りて岩の正面が見えるところまで来て双眼鏡でハンカチの周辺を探索して、ルートを決め再び登ったということを知り、技術だけでなく、知恵と戦術が必要だなと感心させられました。

バックスの目的に食いついたら離れない。この態度は参考にして来ましたが凡人の事、思うように行きませんでした、時々お前はしつっこいと言われましたので、少しはまねできたかと思っています。小生は、この態度を“継続は力なり”と解釈しています。

岩稜会の松田さんが、南極探検のメンバーで参加するので、記念に岩稜会の旗を南極へ埋める。茶筒にパラフィンで封じて欲しいとバックスに頼まれ、茶筒は錫でしたので、低温では、ティンペストになって砕けるから、鉛製に変えて封じてさし上げたことも思い出しました。岩稜会の方々は皆良い方達で山男とはこういう人だと感心させられました。岩稜会に入会するには、1 年の参画活動が必要で、全員の OK がないと入会できないとバックスから聞いて、何故かと尋ねたら、お互いにザイルで命を預けなければならないからという返事でした。なるほどと感心させられました。

オネストジョン、ついに物にしましたね。最初聞いたときは物になるのかなと愚考しました。すばらしいです。葬儀の時は隣に溶接屋さんがいました、介護椅子の

骨組みの溶接作製のお話を聞かせてもらいました。本当に何時までも前へ進んで居られたと感服しました。

もっと早くお悔やみすべきところ、遅くなり申し訳ありません。

つい、バックス以外の思い出話にもいってしまいました。

バックス、おばさんと一緒に安らかに天国でお暮らしてください。

秋深く、寒さに向かいますので、お体ご自愛ください

梓ちゃんにもよろしくお伝えください。

敬具

一昭和 35 年 8 月 2 日～8 日、槍ヶ岳・北穂・奥穂縦走夏山合宿

北穂頂上にて。
左より梓(姉)・甘ちゃん
・熊崎さん・江口さん・
伊藤さん・外村さん・敏
子(母)・山路さん・柴田
さん(義兄)・小さいのは
あづみです。一



一北穂南稜で休息

右より後ろ二人目が
熊崎さんです。一